

三重交通グループ中期経営計画(2016 - 2018)

計画策定の背景及び進捗状況

策定の背景

2016年2月に策定した3カ年の中期経営計画では、

インバウンドの増加

リニア中央新幹線
建設に伴う
名古屋地区の活況

伊勢志摩サミット
開催による
地域の知名度向上

新名神高速道路の
開通

上記等をビジネスチャンスと捉え、グループの持続的な成長、発展を実現するための3つの基本方針と2019年3月期の数値計画・経営指標等を定めました。

3つの基本方針

～変化の激しい経営環境に適切に順応し、持続的な成長・発展を実現する～

- 1 安全・安心・安定・快適なサービスの提供
- 2 成長分野への戦略的投資
- 3 経営の安定性確保

中期経営計画の進捗

単位：百万円

	2017年 3月期 (実績)	2018年 3月期 (実績)	2019年3月期		
			予想 (2018年 5月公表)	予想 (2018年 11月公表)	経営計画目標値 (2016年 2月公表)
営業収益	102,742	104,436	106,000	107,000	117,000
営業利益	5,576	6,244	6,300	6,400	6,300
経常利益	5,487	6,431	6,100	6,300	5,700
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,529	4,172	4,200	4,300	3,500
自己資本比率	25.3%	28.2%	(30.0%)	(30.0%)	25.7%
ROE (自己資本純利益率)	9.5%	10.0%	(9.2%)	(9.4%)	8.6%
ROA (総資産営業利益率)	3.6%	4.0%	(4.0%)	(4.1%)	3.8%
D/Eレシオ	1.9倍	1.7倍	(1.6倍)	(1.6倍)	1.9倍
有利子負債/ EBITDA倍率	7.0倍	6.2倍	(6.4倍)	(6.4倍)	6.5倍

■ 中期経営計画の当初計画値(2016年2月公表)の達成(2019年3月期については見込み)
() 書の指標等は2018年5月、11月公表数値を基にした予想値

数値計画の進捗状況

2018年3月期の実績

中期経営計画の2年目にあたる2018年3月期は、メガソーラー事業・ビジネスホテル事業の拡大に伴う「事業構造の変革」が一層進み、利益水準が大きく向上しました。

この結果、営業利益については、2006年のホールディングス体制移行後の最高益、経常利益については2期連続、純利益については6期連続で最高益を更新することができました。

また、中期経営計画に定めた目標値については、経常利益、純利益及び全ての経営指標で達成することができました。

2019年3月期の予想

2019年3月期の営業利益はホールディングス体制移行後の最高益を2期連続で更新。また、純利益は7期連続で最高益を更新する見込みです。

(本年11月、営業収益と各利益項目の予想数値を上方修正しました。)

投資

中期経営計画では、総額330億円の投資を計画し、2017年3月期及び2018年3月期の2カ年で約191億円の投資を行いました。2019年3月期は第2四半期までで「御在所ロープウェイ」のリニューアル、「ヤマダ電機・テックランド名古屋港店土地」(不動産賃貸土地)の取得で、約60億円の投資を行いました。今後「(仮称)三交イン京都八条口」の建築工事、「名古屋三交ビル」の建替工事等が進むことで通期の投資額は約100億円になる見込みです。

2019年3月期 セグメント別業績予想

単位：百万円

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
運輸	26,000	1,200		
不動産	36,500	4,600		
流通	37,500	100		
レジャー・サービス	12,800	400		
(調整)	△5,800	100		
計	107,000	6,400	6,300	4,300

中期経営計画において掲げた重点施策の進捗状況 (2018年10月末時点)

運輸セグメント

「伊勢志摩サミット」では、政府・報道関係者、「お伊勢さん菓子博2017」「全国高等学校総合体育大会」では来場者・関係者の輸送を無事に完遂しました。また、名古屋市営バスの受託車両数増加により、収益・利益の安定化が一層進みました。



伊勢志摩サミット
2016年5月26日・27日



お伊勢さん菓子博2017
2017年4月21日～5月14日



全国高等学校総合体育大会
2018年7月26日～8月20日

不動産セグメント

賃貸施設の新規オープンやリニューアル、駐車場事業の拡大、メガソーラー発電所の新規稼働によりストック事業全体の強化が進みました。また、2018年2月には賃貸マンションの開発事業に参入、6月には、名古屋三交ビルの建築工事に着手しました。



LIXILショールーム名古屋
2016年4月オープン



イオンモール桑名
アंक専門店街
2017年3月リニューアル



志摩市阿児立神
メガソーラー発電所
2017年12月運転開始



三交の駐ng
コインパーキング事業
(三重・名古屋)



賃貸マンション開発事業
(プレイズシード桜山)
2018年2月竣工

流通セグメント

2018年9月に東急ハンズの新店舗を名古屋市内のショッピングセンター「mozoワンダーシティ」内にオープンしました。また、自動車販売事業は、2017年3月期に、年間の新車販売台数が10年ぶりに1,000台を超えました。



東急ハンズ名古屋店
2016年11月リニューアル



東急ハンズ名古屋
モゾワンダーシティ店
2018年9月オープン



新車販売台数1,000台超
2016年4月～2017年3月

レジャー・サービスセグメント

伊勢志摩サミット開催に合わせて「鳥羽シーサイドホテル」をリニューアルオープンしました。また、成長分野のビジネスホテル事業では、「三交イン伊勢市駅前」、「三交イン名古屋新幹線口ANNEX」に続き、「三交イン大阪淀屋橋」が2018年9月にオープンしたほか京都・名古屋への新規ホテル計画を決定するなどチェーン拡大を図りました。



三交イン伊勢市駅前
2016年11月オープン



鳥羽シーサイドホテル
2016年4月リニューアルオープン



三交イン大阪淀屋橋
2018年9月オープン



三交イン名古屋新幹線口
ANNEX
2017年12月オープン

インバウンドへの取組み (※特集P31～P32)

インバウンドの誘客活動強化及び受入体制の整備に努めています。

台湾からの誘客活動を強化

御在所ロープウェイは、2018年5月9日、台湾で最長の路線を持つ「猫空(マオコン)ロープウェイ」と認知度向上、相互誘客を目的とした友好協定を締結しました。

友好協定が契機となり、台北メトロの117駅にあるモニターで御在所ロープウェイの動画が放映されています。



調印式



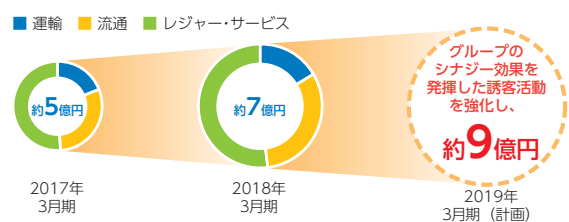
猫空(マオコン)ロープウェイ

御在所ロープウェイ

今後の展開

2018年3月期のインバウンド関連の収益は、三交インの宿泊や東急ハンズでの免税商品売上、貸切バスの利用など把握できているもので約7億円あり、前期に比較して約2億円増加しました。

今後も、バスやホテル、レジャー施設などグループのシナジー効果を発揮した誘客活動を強化し、インバウンド関連の収益拡大を目指します。



引き続きインバウンド関連の収益を拡大

東急ハンズ「名古屋モゾ ワンダーシティ店」

東急ハンズ名古屋モゾ ワンダーシティ店を2018年9月にオープンしました。「mozoワンダーシティ」は、鉄道、道路のアクセスで利便性に優れ、店舗面積において中部圏最大級を誇る郊外型のショッピングセンターです。今後は、ANNEX店、名古屋店と合わせて名古屋地域における事業拡大を目指します。



ビジネスホテル事業の拡大

成長分野のビジネスホテル事業の三交インでは、「(仮称)京都八条口」と、「(仮称)Grande名古屋」の開業計画が決定し、2,000室体制構築の目途が立ちました。今後は、ゴールデンルート上の店舗拡充に努めるとともに、出店エリアも拡大する予定です。

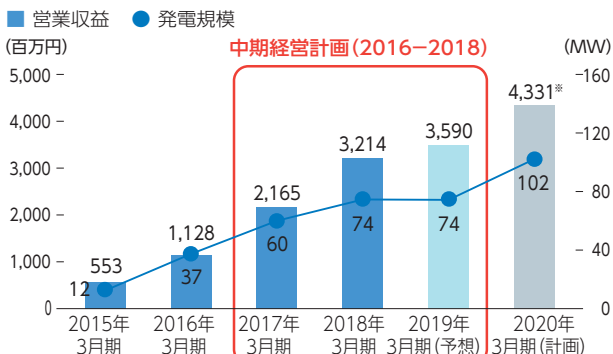
(仮称)三交イン京都八条口



メガソーラー事業

太陽光発電施設の着実な開発により、収益拡大が続いています。現在建設中のメガソーラー発電所2施設が完成すると発電規模は102MW、営業収益は43億円に到達する計画です。

メガソーラー事業計画



*当該年度末までに運転を開始した施設が1年間を通して稼働した場合の営業収益を記載

名古屋三交ビルの建替え

名古屋三交ビルは建替え計画を進めており、2018年6月から建築工事に取り掛かり、東京オリンピックが開催される2020年6月までに店舗、オフィス、ビジネスホテル((仮称)三交インGrande名古屋)を含む複合ビルとして開業し、当社グループの新たなシンボルとなるビルになる予定です。名駅エリアの新たな都市機能と景観を創出し、更なる地域活性化の一端を担っていきます。

名古屋三交ビル概要

総事業費	約50億円(解体費等を含む)
延床面積	約10,470㎡(約3,167坪)
構造規模	鉄骨造地下1階地上16階
地下1階	地下街ユニモールへ直結
1階	店舗
2階～7階	オフィス
8階～16階	(仮称)三交インGrande名古屋128室(計画)

立地特性

- 1 リニア中央新幹線名古屋駅(計画)に近接
- 2 名古屋駅から徒歩8分 地下鉄国際センター駅に直結
- 3 名古屋市のメイン道路「桜通」沿い
- 4 名古屋駅から続く地下街ユニモールにも直結



2018年6月建築工事着工

御在所ロープウェイ リニューアル

御在所ロープウェイは、2018年7月にリニューアルオープンしました。新たに導入したゴンドラ(10両)では、窓のサイズアップに加え、床面にも展望窓を設けました。また、山頂に展望レストランを新築、山麓にアウトドアショップ「モンベル」を出店し、引き続き「顧客満足度のアップ」や「収益の向上」を目指します。

新ゴンドラの導入(一部)

- 1 床面展望窓の新設
- 2 窓のサイズアップ

御在所岳の
絶景を
体感!!



mont-bell

山麓エリアには「モンベル」をフランチャイズで出店

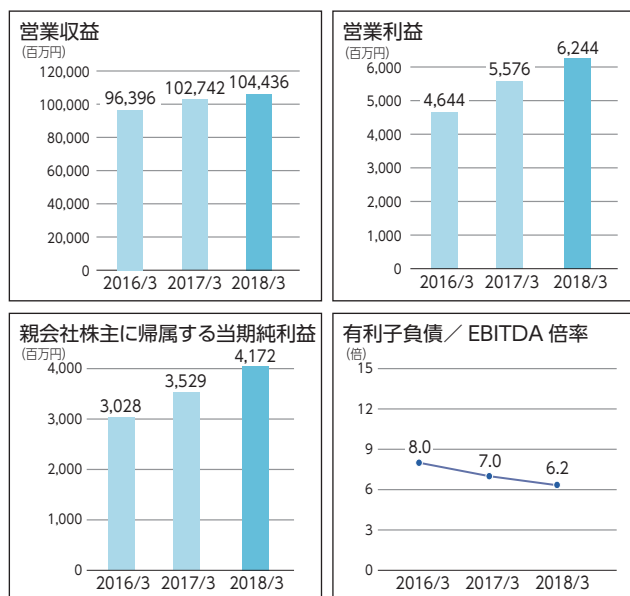


財務諸表

経営指標

	2016/3	2017/3	(百万円) 2018/3
営業収益	96,396	102,742	104,436
営業利益	4,644	5,576	6,244
営業収益営業利益率 (%)	4.8	5.4	6.0
連結子会社数 (社)	23	23	23
経常利益	4,483	5,487	6,431
総資産経常利益率 (%)	3.1	3.6	4.1
親会社株主に帰属する当期純利益	3,028	3,529	4,172
自己資本当期純利益率 (%)	9.0	9.5	10.0
1株当たり当期純利益 (円)	32.23	35.95	42.15
1株当たり配当 (円)	6	7	8
利益剰余金	17,167	20,134	23,111
総資産	150,882	155,859	155,787
自己資本	34,827	39,451	43,973
自己資本比率 (%)	23.1	25.3	28.2
発行済株式数 (千株)	107,301	107,301	107,301
1株当たり純資産 (円)	370.68	398.51	444.19
有利子負債	74,969	76,837	74,406
EBITDA (営業利益+減価償却費)	9,429	10,919	11,921
有利子負債 / EBITDA 倍率 (倍)	8.0	7.0	6.2
減価償却費	4,784	5,343	5,676
設備投資	10,770	11,496	7,727
営業活動 CF	△ 2,333	8,154	11,598
投資活動 CF	△ 10,727	△ 12,075	△ 8,500
財務活動 CF	12,931	3,410	△ 3,145
現金及び現金同等物期末残高	3,256	2,747	2,699

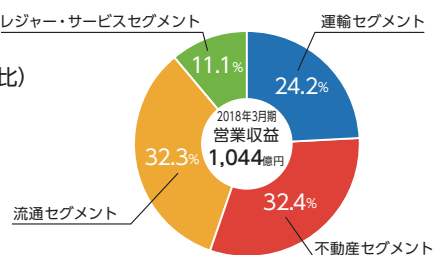
財務情報



セグメント情報

	2016/3	2017/3	(百万円) 2018/3
営業収益	96,396	102,742	104,436
運輸セグメント	26,817	26,345	26,604
一般乗合旅客自動車運送事業	11,452	11,252	11,556
一般貸切旅客自動車運送事業	8,366	7,926	7,629
一般乗用旅客自動車運送事業	1,466	1,473	1,505
貨物自動車運送事業	186	201	201
自動車整備事業	440	461	530
旅客運送受託事業	4,229	4,213	4,278
その他	2,523	2,699	2,821
内部取引の消去	△ 1,845	△ 1,884	△ 1,917
不動産セグメント	26,612	33,461	35,648
分譲事業	10,672	14,856	15,497
賃貸事業	7,761	8,227	8,310
建築事業	4,753	5,725	5,965
環境エネルギー事業	1,128	2,165	3,214
仲介事業	1,058	1,098	1,141
その他	1,660	1,823	1,895
内部取引の消去	△ 422	△ 435	△ 376
流通セグメント	36,694	36,576	35,531
石油製品販売事業	12,165	11,247	12,051
生活用品販売事業	13,459	12,770	12,177
自動車販売事業	11,115	12,599	11,362
内部取引の消去	△ 46	△ 40	△ 59
レジャー・サービスセグメント	11,393	11,822	12,227
ビジネスホテル事業	2,949	3,330	3,857
旅館事業	2,255	2,942	3,049
ドライブイン事業	2,354	2,294	2,296
索道事業	675	634	604
ゴルフ場事業	583	444	424
旅行事業	1,295	957	840
自動車教習所事業	916	923	879
その他	367	296	277
内部取引の消去	△ 3	△ 0	△ 3
営業利益または営業損失	4,644	5,576	6,244
運輸セグメント	2,469	1,957	1,827
不動産セグメント	1,844	3,223	3,729
流通セグメント	262	△ 14	293
レジャー・サービスセグメント	△ 2	293	305
調整額	71	116	88
営業収益営業利益率 (%)	4.8	5.4	6.0
運輸セグメント (%)	9.2	7.4	6.9
不動産セグメント (%)	6.9	9.6	10.5
流通セグメント (%)	0.7	—	0.8
レジャー・サービスセグメント (%)	—	2.5	2.5

事業別の概要 (連結営業収益の セグメント別構成比)



※ 各事業の営業収益割合には、セグメント内の内部営業収益等が含まれています。